

## 審査の結果の要旨

竹形 みずき

出産によるトラウマ症状（産後のトラウマ症状）は、産後の生活への支障、児への愛着障害、夫婦関係、次の育児への選択にも悪影響を及ぼす。本研究は、日本人の初産婦・経産婦において産後のトラウマ症状に関わる要因についてそれらの因果関係を検証することを目的とし、妊娠後期、産後早期、産後 1 か月の 3 時点で縦断的観察研究を行い、共分散構造分析による解析を行った。結果以下のことが明らかとなった。

1. 初産婦・経産婦共に、妊娠後期の出産恐怖感 (Psychological factor) は産後早期のトラウマ症状を有意に予測し、産後早期のトラウマ症状は産後 1 か月のトラウマ症状を予測していた。
2. 初産婦では、妊娠期の出産恐怖感は低い世帯収入、過去の精神疾患の既往が妊娠期の出産恐怖感に関連していた。
3. 経産婦では、前回の出産体験に対する不満足感は妊娠期の出産恐怖感に関連していた。
4. 初産婦では、妊娠後期に測定した出産時の家族のサポート期待感は、産後 1 か月のトラウマ症状と負の関連がみられた。

以上、本論文では、いまだ明らかではない産後のトラウマ症状の要因の因果関係に着目し、初産婦・経産婦共に妊娠期の出産恐怖感は産後のトラウマ症状を予測したことから、妊娠期の出産恐怖感を軽減するような助産ケアは産後のトラウマ症状の発現に寄与する可能性があることが示唆された。また、このような妊娠期の出産恐怖感の強い初産婦の背景には、低い世帯収入・低い既往疾患が関連しており初産婦ではこのような属性を有する妊婦に注意する臨床上の必要性が示唆された。一方、経産婦では、前回の出産に対する不満足といった過去の出産体験が今回の出産恐怖感に影響しており、過去の出産に対する心理的な支援など初・経産婦でアプローチ法が異なる可能性が示唆された。本結果は産後のトラウマ症状に関して臨床現場では未だ解決されていない予防的介入法の開発に向けて重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値すると考えられる。